

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

P2 特集

地域と共に進める福祉学習

～学校・当事者・地域がつながる展開を目指して～

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 地域を駆ける! ワーカー物語

大好きな神河町の人たちの支えになりたい

神河町社会福祉協議会

中島 晋さん

P8 みんなでつくるひょうごの福祉

不登校の子どもと親を支えるフリースペース スイッチ

～地域の資源を活用した新たな取り組み～

明延鉱山を活用した地域活性化と

「明延ご機嫌暮らしプログラム」

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 もっと知ろう! 障害者差別のないまちづくり

P12 インフォメーション

2016

11

No.789



11月は
「児童虐待防止推進月間」だよ!



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

明石市

明石海峡大橋



地域と共に進める 福祉学習

～学校・当事者・地域がつながる 展開を目指して～



誰もが尊厳を守られる「支え合い社会」に向けて、住民主体の地域づくりが注目される中、自分たちのまちを自分たちでつくる力を養い、そのための福祉の心を身につける福祉学習が、今まで以上に重要性となってきている。

今回の特集では、学校と地域が共に進める福祉学習の取り組みを紹介し、これからの福祉学習の新たな方向性を探る。

福祉学習を巡る情勢

住民主体の地域づくりに向けて

近年、経済的困窮や社会的孤立を背景とするさまざまな生活福祉課題への対応が求められており、地域住民に社会制度で対応できない身近な支援を期待する動きが出てきている。

例えば、地域包括ケアや生活困窮者支援では、住民同士の支え合いを育み、社会的孤立を解消するための「地域づくり」が盛り込まれている。また、高齢者、障害者、子どもなど誰もが共に生きる社会を目指して、厚生労働省の「我が事丸ごと」地域共生社会実現本部でも「住民主体による地域課題の解決力の強化・体制づくり」を検討している。

このような住民主体の取り組みを実現するため、住民の福祉に対する理解を育み、「福祉文化」を醸成する福祉学習は、地域福祉の基盤づくりに欠かせないものとなってきている。

県内における福祉学習の取り組み

これまでも県内では、学校や地域における福祉学習の実践がさまざまな形で展開されてきた。

「福祉学習」と聞くと、車いすやアイマスク、高齢者の体験器具等を使って、生活に制約のある状態を「疑似体験」するプログラムを連想する人も多いかもしれない。しかし、近年では、そのようなプログラムが「障害者はかわいそうな人」などという旧来の福祉観を形成しかねないという反省から、子どもたちが多様な世代や立場の人と関わることで、多様性を認めていけるような内容となるよう工夫されつつある。

また、大人たちも福祉学習に参加して当事者とも交わる中で、地域課題の共有を通じて、課題解決のための協議や実践につながっていった事例も多い。

以下では、県内における福祉学習の実践を紹介しながら、新たな時代の福祉学習の方向性を考える上でヒントを探っていく。

■図表 県内市町社協の福祉学習の取り組み例

- 市内小中学校の全てを福祉協力校に指定して、障害者との交流や手話講座、疑似体験等を実施している。
- ボランティア活動に参加し、地域貢献の大切さを学んだり、仲間づくりをする高校生ボランティアへの取り組みを進めている。
- 地域住民が小学校の福祉学習に参加し、地域活動等を伝えたり、児童と住民が地域のことを話し合った。
- 中学校、高校の教諭を対象に、障害者を講師に招き、生徒の理解を深めるプログラムを検討する研修会を開催。

※「ひょうごの福祉の現況調査」(平成28年度)の結果より



事例1
子どもと住民、
当事者の協働の機会づくり
～有岡小学校と地域住民の
取り組み(伊丹市)～

有岡小学校では、平成26年9月、総合的な学習の時間を活用して、児童と地域住民、聴覚障害者が一緒に琉球朝顔を植える「有小花いっぱいプロジェクト」を実施した。きっかけは「朝顔で緑のカーテンをつくりたい」と思った同校の田中敬造校長が、ボランティアが運営する「有岡ハートボランティアセンター」(以下「有岡ボラセン」)※にアイデアを持ち掛けたことだ。

地域と一緒に取り組むことになった背景には、社協が学校と有岡ボラセンの橋渡しをしたことに加えて、日頃から地域住民が学校の植木の手入れを行う等、つながりが強く、協働しやすい基盤があったことが大きい。そして、子どもたちの当事者への理解を深めるため、聴覚障害者の参加も得ることになった。

プロジェクト当日は、3年生の児童と地域住民、聴覚障害者ら18人が参加。子どもたちは聴覚障害者と身

振り手振りを交えながら、朝顔の苗植えて一緒に汗を流した。「子どもと地域の大人、障害のある方が、お互い構えずに自然な形で交流して、学び合えたと思う」と当時の担当者だった市社協の小林加世子さんは言う。田中校長は「交流をきっかけに、優しい思いが咲き続けることを願っている」と子どもたちへの期待を語る。

今後、有岡小学校では、4年生の児童を対象に、地域住民が講師となつて防災をテーマにした授業を行う予定で、学校と地域が協働した取り組みが続いている。

さらに、市社協では毎年、市内の教員や住民を対象に「福祉学習担当者研修会」を実施し、学校と地域、当事者が協働した取り組みを共有する場づくりをしながら、福祉学習の一層の普及を目指している。

※伊丹市内には、小学校区を範囲に、住民が運営する「地区ボランティアセンター」が設置されている(現在10カ所)。高齢者や障害者等から住民コーディネーターが困り事を受け、登録ボランティアがごみ出しや電球交換等の生活支援を行っている。



当事者と協力し合って朝顔を植える子どもたち

事例2
さまざまな交流を通じて
子どもたちの気づきを引き出す
～湊小学校の取り組み
(南あわじ市)～

湊小学校では、総合的な学習の時間などを生かして、さまざまな交流・体験プログラムを実施している。

力を入れている取り組みの一つが、地震と津波を想定した防災訓練だ。毎年1月には、児童とPTAの保護者らが参加して、災害図上訓練を行っている。今年1月は、講師を招き津波に対する日頃の備えを聴



いた後、各地区に分かれて、地図上に学校から自宅までの通学路の避難経路や危険場所等の書き込みを行った。また、保護者から地震津波に備えて家族で話し合っただけで決めていることを話してもらった。子どもの防災意識を高めるだけでなく、家に帰っても防災について話し合うきっかけをつくることで、家族全体の意識を高めることが狙いだ。訓練では、高学年が低学年に通学路の危険場所を教える等、年齢を越えた交流の機会にもなっている。

もう一つ、力を入れているのは、交流を通じた福祉学習だ。きっかけは、今年3月、それまで5年生の児童は、車いす体験を通して身体障害者の不自由さを学ぶプログラムを行っていたが、高齢者のことも知りたいたいという子どもの声を受けて、教員が社協に相談したことだ。社協からは、装具を使った高齢者の疑似体験だけでなく、実際に高齢者との交流を提案。以前から地域への貢献をしたいと意欲的だった社会福祉法人みかり会と考案が一致して、児童と高齢者との交流が実現した。



お年寄りの目を見て、しっかり声を伝えようとする子どもたち

で高齢者との交流を考えてきたが、顔を合わせて会話をしてみると、耳が遠く会話しづらい高齢者もいて、相手に通じるよう工夫しながら「コミュニケーションを図る姿が見受けられた」という。

市社協の担当者は、「以前、地域の子どもと高齢者とのレクリエーションに関わらせてもらった際、実際に交流することでの気づきの大切さを実感した。その経験を児童たちにもしてもらいたかったと振り返る。

現在は、3年生から6年生まで交流を含めた多様な福祉学習を授業

誰もが認め合える「支え合い社会」づくりに向けて

事例から見る福祉学習のポイント

事例1・2は、多様な参加者が参画した学校における福祉学習の新たな展開であり、事例3は当事者と住民自身の気づきを広げる学びの場づくりの事例である。これらの事例から共通して見えてきたポイントは次の通りである。

- ①当事者と交流する機会をつくる
- ②子どもの学びが大人の学びに
- ③身近なテーマを取り上げる
- ④プログラムはじっくり話し合う
- ⑤多様な主体との協働を進める

①当事者と交流する機会をつくる
当事者との交流を通して、子どもや住民が自分のこととして感じたり、自分と同じ一人の人として認め合えるという「気づき」から得られる学びの意義は大きい。また、当事者自身にとって「伝える」「教える」という役割づくりにもつながる。

に組み込み、継続的に実施している。このような交流は、子どもたちの気づきを引き出すだけでなく、地域の大人や当事者にも意識の変化をもたらす、新たな役割をつくり出している。

事例3
当事者を知ることで地域が変わる
「認知症地域支え合いグループ
みどりほっとクラブ」の取り組み
(二木市)

同クラブは、認知症高齢者とその家族を支えるため、高齢化率が市内で最も高い緑が丘町の住民と当事者の家族が一緒になって平成27年4月に立ち上げた。地域住民で構成するメンバーは現在25人。クラブでは、毎月、住民も参加できる認知症サロンを開催したり、外出時の見守り、寄り添いを行っている。そして、もう一つ活動の柱になっているのが、認知症の「正しい理解を広げる活動」だ。

クラブが啓発活動を行うことになったきっかけは、最初にサロンを開催した際に、自治会内の回覧等で広報をしたにもかかわらず、参

②子どもの学びが大人の学びに
子ども自身が学校で学んだことを親や祖父母等に伝えることで、周囲の大人にも波及していく。また、大人自身も子どもや当事者との関わりを通して相手を知り、学び合うことで、日頃の生活の中で、気に掛けたり、見守りにつながることも期待できる。

③身近なテーマを取り上げる
福祉学習で取り上げるテーマは、「福祉とは何か」という概念的なテーマよりも、「認知症」や「防災」など、自分たちに身近なテーマを取り上げることが、「私たち」の課題としてより深い学びを得やすい。

④プログラムはじっくり話し合う
福祉学習のプログラムを考えるプロセスそのものも気づきや学びの機会である。社協は、教員や住民らの福祉学習に対する思いをじっくり聴き、その思いを表現できるプログラムをとともに考えることが重要な役割である。

加者が本人とその家族の1組だけだったことだ。「家族が、住民の認知症への理解が十分でないと思い、認知症であることをオープンにしてサロンに出てくるまでに至っていない」と思うと振り返るのは、クラブ代表の堤憲昭さん。

堤さん自身も認知症になった妻を介護している。妻の介護を始めた当初、誰にも話せずに苦しんだが、同じ介護者との出会いをきっかけに「自分一人だけじゃない」と心が軽くなっていったという。介護者になっても孤立せず、SOSを出し合える場をつくりたい。そんな思いからクラブの代表になった。

最初のサロン以降、クラブは認知症のことを伝えるため、まずはメンバー自身がさまざまな研修会に参加し、認知症や国の動向等を学ぶことから始めた。そして、メンバーが地域に向いて、まちづくり協議会主催の実践報告に積極的に登壇したり、認知症を取り上げた映画会の開催等を行っている。

クラブ結成から1年半。サロンや啓発活動を続ける中で、サロンは地域住民も含めて40人程まで参加者

⑤多様な主体との協働を進める
学校や地域関係者だけでなく、社会福祉法人をはじめ、多様な団体と連携・協働することにより、実効性のあるプログラムの開発が可能となる。社協には、連携・協働の橋渡しをすることが期待されている。

気づきと内発性を意識して進める
福祉学習を推進していく上では、福祉学習に関する内容やプログラムにのみ着目しがちだが、事例3のように、福祉学習を直接の目的としていなくても、参加者の学びを意識して展開することで、福祉学習的な側面を持った取り組みとなる。

「住民主体による地域づくり」は、住民同士の出会いの中から得られる「気づき」と、そこから生まれる「地域を良くしていきたい」という、内発的な思いがあって初めて実現するものだ。新たな時代の「支え合い社会」づくりに向けて、あらゆる場面において、福祉学習の要素を意識した地域福祉活動を展開することが大切だ。今後、社協をはじめとしたさまざまな主体が協働して福祉学習を広げていく。



クラブ主催の認知症サポーター養成講座。熱心に聞き入る住民たち



このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。



さまざまな場面で、地域での暮らしを支える中島さん。福祉有償運送の様子

神河町社協では、小学生の夏休みの宿題を地元の高中生や大学生が手伝ったり、一緒に野外活動に取り組んだりする「夏休みこども塾」を8月に実施しました。これは、学生など若い世代の方に、生まれ育った地域でのボランティア活動に興味を持ってもらうきっかけとして実

心に残るエピソードは？

地域を駆ける！
ワーカー物語

大好きな神河町の人たちの 支えになりたい

施したものです。参加者の中には、「中学生の頃にトライやる・ウィークの職業体験として社協で活動した経験があって、こども塾に参加しました」と語ってくださる学生もいて、「こういった取り組みが広がっていくことを実感できて、とてもうれしく思いました。」

力を入れている活動は？

神河町では高齢化の進行や人口減少などが大きな課題となっています。また、家族や地域のつながりも薄れつつある中で、一人暮らしなどの高齢者世帯の見守りを充実していくことが求められています。一方で、こういった活動に取り組んでくれるボランティアの確保は困難となっています。こうした中、従来から実施してきた高齢者世帯への福祉給食サービスの見直しに取り組んでいます。4月か

らは日常の生活に刺激を与え、外部とのつながりを継続することを主眼とした「ふれあい型」と、体調管理や様子の変化を見守る「安否確認型」に分け、限られた人数でも効果的に、また世帯の状況に応じた細やかな対応が可能となるよう取り組んでいます。

大切にしていることは？

社協の仕事とは「ひとおし」や「あとおし」が大切ではないかと感じ、日々の地域のボランティアさんとの関わりや窓口の相談を行っている。例えば、住民の方々が相談に来られ社協のサービスにどれも該当しない場合でも、後日電話や自宅に訪問して再度話を聞くなど、一見おせっかいとも思えるこの「ひとおし」をすることで、「社協に相談しに行っても良かった」と言ってもらえることができると思います。小さな行動かもしれませんが、これが「ひとおし」が制度の狭間にある方の「あとおし」になればと思っています。

取材を終えて

神河町で生まれ育ち、幼い頃から自分を見守ってきてくれた地域の方々への感謝と、その役に立ちたいという思いから、「ご恩を返したい」と繰り返し話された中島さん。その熱意が活動の原動力となっていることを強く感じました。

神河町社会福祉協議会
なかしま すずむ
中島 晋さん

Personal History

- 27歳 入局 専任職員
- 28歳 東日本大震災で初めて被災地支援に携わる
- 31歳 ボランティアコーディネーターとなる



TOPICS

コミュニティカフェ開設応援事業の助成団体が決まりました!

本会では、兵庫県の「ふるさとひょうご寄附金」を原資に、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、住民同士の交流や支え合いの拠点となる「コミュニティカフェ」の開設を応援する助成事業の募集を行い、下記の

団体に助成を決定しました(助成総額200万円)。助成は、コミュニティカフェを開設する際に必要な経費や、コミュニティカフェ開設に向けた講座等の開催に要した経費に対して行います。

●開設経費の助成(ブロック順)

No.	市町名	団体名
1	尼崎市	社会医療法人愛仁会尼崎だいもつ病院
2	伊丹市	花里地区社会福祉協議会
3	伊丹市	寺本東自治会「いっぶく郎」
4	伊丹市	桜台地区コミュニティ協議会
5	猪名川町	差組健康づくり支援員
6	猪名川町	白金小学校区福祉委員会
7	猪名川町	猪名川小学校区福祉委員会
8	姫路市	特定非営利活動法人えんじえる会
9	市川町	市川町北田中区
10	市川町	西川辺東区

No.	市町名	団体名
11	神河町	神河ナースボランティア
12	神河町	神河町社会福祉協議会
13	豊岡市	いこいの社
14	養父市	地域ふれあいの家ほっとハート
15	朝来市	おしゃべりサロン
16	朝来市	久田和 端の会
17	朝来市	野間区
18	丹波市	丹波市社会福祉協議会
19	洲本市	川西サロン
20	淡路市	認知症の人をささえる家族の会 ひまわりの会

●開設応援講座の助成(ブロック順)

No.	市町名	団体名
1	伊丹市	伊丹市社会福祉協議会

No.	市町名	団体名
2	宍粟市	宍粟市社会福祉協議会

社会福祉大会を小野市で開催

10月15日、小野市民会館にて、県・県社協・県共募・小野市・小野市社協の共催により、第65回兵庫県社会福祉大会が開催された。当日は、県内各地から社会福祉関係者約1,000人が参加。第1部の表彰式典では、永年にわたり社会福祉の向上に貢献された約650の個人・団体が表彰され、県副知事、県社協会長より代表者に対して表彰状・感謝状が贈呈された。また、今年は共同募金創設70年を記念して、約1,100の個人・団体が表彰され、県共募会長より代表者に対して表彰状・感謝状が贈呈された。

第2部では、タレントのダニエル・カール氏をお招きし、「人と人との繋がり」と題しての記念講演が行なわれた。ユーモアにあふれた講演内容から会場は参加者の笑い声に包まれ盛況のうちに閉会した。次回は、加西市で開催される。



社会福祉大会でキャンペーンをPR!

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの協賛事業としても開催された同大会では、小野市内の障害者福祉施設等による物品販売も行われ、多くの来場者でにぎ

わった。キャンペーンのパネル展示と共に、のぼり旗を大きく掲げ、「支え合い社会」に向け機運を高める機会となった。

地域で支え合い、
地域を元気にする
取り組みを紹介します。



セルフヘルプグループの宝塚不登校の会「サポート」は、不登校となった子どもやその親が抱える不安や悩みについて話し合う場を設け、地域で孤立せず安心して暮らしていくことを目的に活動しています。今回は、「サポート」が通所介護事業所(デイサービス)を会場にして、夜間に子どもや親が集う場として開設した「フリースペース スイッチ」を紹介するよ。

みんなでつくる ひょうごの福祉

あけのべ
養父市の山間部に位置する明延では、住民が元気に暮らしていくための取り組みとして、地域でできることを前提とした「明延ご機嫌暮らしプログラム」を作成しているよ。明延の地域を活性化するために、住民が協力して、新たな活動に取り組んでいるんだ。

子どもも親も参加しやすい 時間と場所

宝塚市内では他にも不登校生徒の居場所の提供などが行われているが、「サポート」の代表である石川さんは、顔見知りに出会うことに不安を抱く子どもや、仕事などの理由で昼間に参加できない親がどうすれば参加しやすくなるかを考えていた。

「街中にはたくさんの通所介護事業所があるが、そこを活用する方法はないか」と、デイサービス終了後の時間帯に着目。そして、宝塚市内では参加しにくい子どもへ配慮し、平成28年3月、宝塚に近い伊丹市内の通所介護事業所「スイッチオン伊丹」内に「フリースペース スイッチ」を開設した。活動日は、火曜日(毎月第2火曜日は休みの)の17時30分から19時30分まで。

会場を提供する「スイッチオン伊丹」の経営者は、不登校の経験もある石川さんの長男(智昭氏)。自身の経験からもスイッチの活動に理解を示し、活動をサポートしている。

不登校の子どもと親を支える フリースペース スイッチ

～地域の資源を活用した新たな取り組み～



若者とスタッフが一緒に運動しています



取材日は、子どもの参加がなく、親同士の話し合いの場となりました

子どもが自信を育む 「ぎゅっかけづくり」

支援を行っていくためには継続して参加したいと思ってもらえるような「ぎゅっかけ」が必要。体を動かしたいと感じている子どもが、リハビリ器具を利用した簡単な運動を行うことができる。他にも、夜間のみでなく日中も参加したいという子どもが、通所介護事業所の事務を手伝うなど、簡単な作業を提供することも可能だ。運動や作業、就労を通じて、自分にもできることがあるという自信へとつながれば、それがまたスイッチへ行きたいと思えるきっかけになる。このようなきっかけを1カ所で開催できることが、スイッチの強みである。

親支援が子どもにつながる

「不登校の子どもを持つ親は、自分一人で悩みを抱え込んでしまい、自信を喪失し疲労している場合が多く、親を元気づけるような支援が必要」と石川さんは話す。まずは、親にスイッチの存在を知ってもらい、親同士が集まる。そして、親が少しずつ自信を取り戻し、子どもに居場所の存在を伝えることで、子どもの参加と支援へつながっていくことだろう。

取材を終えて

「自分たちの活動を多くの方々に知ってほしい」と快く取材を引き受けてくれたサポートの皆さん。「スイッチ」のような活動拠点が各地で展開され、一人でも多くの不登校の子どもや親へ支援が行われることを、真剣に考えている思いが伝わりました。

フリースペース スイッチ
所在地 伊丹市鴻池3丁目16-10

問い合わせ 宝塚市社協ボランティア活動センター TEL 0797-86-5001

高齢化への対応と 地域活性化の取り組み

養父市大屋町明延は、かつて明延鉱山で栄えた鉱山町で最盛期の昭和30年頃には約4000人の住民にぎわっていたが、昭和62年の閉山後、急激に人口減少と高齢化が進み、現在は約80人が暮らす。そのうち半数は75歳以上で、市内でも早くから限界集落となった。そこで、同地区では、高齢化への対応と、貴重な明延鉱山の遺構の2つを関連させた地域活性化の取り組みの担い手として、住民を中心とした「特定非営利活動法人 一円電車あけのべ」を発足した。

「一円電車」を通じた 地域づくり・担い手づくり

かつて鉱山従業員の通勤を支えた「明神電車」は、乗車料金が1円で「一円電車」として親しまれていた。平成19年、閉山20年の節目を契機に「ふるさと明延まつり」を開催し、「一円電車」を動かしたところ、大きな反響を呼び、平成22年以降、春から秋にかけての第一日曜日に



ご様子伺いの様子



一円電車まつりの様子

明延鉱山を活用した地域活性化と 「明延ご機嫌暮らしプログラム」

体験乗車会が行われるようになって。毎年10月には「一円電車まつり」が開催され、第10回目となる今年には約2400人が参加。鉱山坑道の探検やミニコンサートなども行われ、住民だけでなく地域外からも多くの人が集う恒例イベントとして定着している。今では、イベントをきっかけに明延を訪れた人と住民との交流が盛んになり、移住を希望する若者も増えてきた。今後の地域の担い手の育成に期待が高まる。

明延ご機嫌暮らし プログラム

高齢化の対応として、住民がいつまでもふるさとで元気に過ごすため、住民・地域ができることを前提

とした「明延ご機嫌暮らしプログラム」を作成。公的な福祉サービスの対象とならない生活課題に取り組む。住民の見守りと安否確認のため、全戸を月2回訪問して声を掛け合い、住民から困り事などの相談があった場合は地区役員へ報告して連携を図っている。また、各戸から出されたごみの仕分けや運搬の手伝い、ごみステーションの管理も行っており、住民から感謝の言葉を受けることも多いという。

同法人は、明延と他地域をつなぐ担い手となって市や近隣地域と連携し、さらには雇用を生み出して「ふるさと明延」を存続させることを今後の目標としている。

取材を終えて

イベントの参加者だけでなく、ボランティアも年々増加しているそうです。住民のつながりを感じることができる温かい明延のまちで、地域の支え合いの輪が広がっています。

特定非営利活動法人一円電車あけのべ
養父市大屋町明延1184
TEL 079-668-0258

兵庫県社協の
役員改選

本年10月23日をもって本会の役員任期が満了することに伴い、去る9月29日に第244回理事会、第189回評議員会が開催され、新たな理事・監事・評議員が選任された。役員任期はいずれも平成28年10月24日からとなる。

また、10月24日に開催された第245回理事会において、本会の正副会長が選出された。会長には吉本知之氏が再任され、副会長には長井克己氏(丹波市社会福祉協議会会長〔新任〕、婦木治氏(兵庫県社会福祉法人経営者協議会会長〔再任〕)、加納多恵子氏(兵庫県民生委員児童委員連合会会長〔再任〕)、中村三郎氏(神戸市社会福祉協議会理事長〔再任])が選ばれた。



第70回目の
赤い羽根共同募金運動

今年で70年目を迎える赤い羽根共同募金運動が10月1日からスタートしました。兵庫県では「助け合い 広がる つながる 赤い羽根」のスローガンを掲げ、5億4486万6000円を目標に来年3月31日まで募金運動を行います。募金は地域の福祉活動や社会福祉施設、災害時の被災者支援の活動などに役立てられます。県共同募金会では、神戸市共同募金委員会との共催で10月1日にオープニングセレモニーを開催しました(於:神戸朝日ホール1階)



ヒロティ特設会場)。現在放送中のNHKの連続テレビ小説「べっぴんさん」で、ヒロインを演じる芳根京子さんがスペシャルゲストとして登場。共同募金運動の開始を宣言いただき、会場に花を添えていただきました。共同募金運動は、県民の誰もが参加できる地域福祉活動です。今年も、皆さまのご支援、ご協力をよろしく願っています。



共同募金の開始を呼び掛ける芳根京子さん(左)と募金協力員の草葉達也さん

新規協力加盟店のご紹介
募金百貨店プロジェクト

企業等が売上の一部を募金して「地域のためになる商品」をアピールしながら地元の福祉活動を応援することができます「募金百貨店プロジェクト」。10月より販売いただいている新規協力加盟店をご紹介します。

株式会社どうぶつ王国
【所在地】神戸市中央区
【対象商品】物販(お土産)売り上げの1%を寄付
【期間】平成28年10月1日～10月31日※販売終了

NPO法人ドリーム&YUME作業所
【所在地】神戸市兵庫区
【対象商品】就労継続支援B型 コーヒーハウスYUMEが提供する400円のお弁当1個につき4円の寄付
【期間】平成28年10月1日～12月22日

本プロジェクトの詳細は、県共同募金会ホームページ(www.akaihane-hyogo.or.jp)にも掲載しています。

もっと知ろう！
障害者差別のないまちづくり

宝塚市社会福祉協議会 みんなで取り組もう！職員の意識を高めるガイドライン

宝塚市社協では、いち早く平成28年4月に「障害者差別解消法 宝塚市協職員向けガイドライン」を作成した。ガイドラインには、法制定までの歴史や背景、不当な差別や合理的配慮の説明に加え、社協の窓口対応、会議・イベントの開催、印刷物を作成する場合に配慮すべき事例などを具体的に盛り込むことで、職員が日常の対応に生かせるように工夫した。

【一例】○イベントでは、車椅子利用者にも配慮して受付の配置やパネル展示等を行う。
○印刷物は、必要に応じて難しい漢字にルビを付けたり、絵や図を使用したりする。文字の大きさや配色にも注意する。

きっかけは、前年7月から宝塚市独自の条例制定に向け、当事者や関係者が集う「宝塚市の障がい者差別解消について考える会」に参画したこと(今年度4月までに6回開催)。参画する中で、行政には不当な差別的取り扱いや

合理的配慮の不提供が禁止されているが、公共性の高い社協の職員が、どこまで意識できているか、を課題として認識したからだ。

特に、障害者の相談支援を担当している職員だけでなく、介護職や地域のワーカーも含めて、全ての職員で共有していくことを目標に作成を進めた。

「ガイドラインを冊子にして配布することで、社協として配慮すべき“ものさし”が明確になり、職員全体の意識改革につながっている。もっと意識を高めたいと、生活場面や介護に絞った研修も必要との声が上がってきている」と担当職員。このガイドラインを通じた組織全体の意識改革が、住民・当事者主体の福祉のまちづくりへとつながっていく。

宝塚市社会福祉協議会 TEL 0797-86-5000



全ての窓口案内板を設置

役職名	氏名	所属
会長	吉本 知之	兵庫県社会福祉協議会 会長
副会長	長井 克己	丹波市社会福祉協議会 会長
	婦木 治	兵庫県社会福祉法人経営者協議会 会長
常務理事	加納 多恵子	兵庫県民生委員児童委員連合会 会長
	中村 三郎	神戸市社会福祉協議会 理事長
	真木 高司	兵庫県社会福祉協議会 常務理事
	安田 末廣	川西市社会福祉協議会 会長
	近藤 龍樹	播磨町社会福祉協議会 会長
	西 元男	赤穂市社会福祉協議会 理事長
	倉内 晋	新温泉町社会福祉協議会 会長
	廣地 タマハ	洲本市社会福祉協議会 会長
	亀田 龍昇	兵庫県民生委員児童委員連合会 副会長
	高田 實	神戸市民生委員児童委員協議会 理事長
	小林 公正	兵庫県保育協会 会長
	石田 文徳	兵庫県老人福祉事業協会 会長
	黒川 恭真	神戸市社会福祉協議会施設部会 部会長
	井上 真二	神戸YMCA 総主事
監事	岡田 和隆	兵庫県身体障害者福祉協会 理事長
	山添 令子	生活協同組合コープこうべ 常務理事
	金澤 和夫	兵庫県副知事
	小西 康生	神戸大学 名誉教授
	大和 三重	関西学院大学 教授
	福井 義三	元兵庫県社会福祉協議会 常務理事
	福田 昌弘	三田市社会福祉協議会 会長
	光岡 研士	兵庫県知的障害者施設協会 副会長
	松山 康二	公認会計士
	評議員	田丸 泰邦
白波瀬 敏夫		神戸市西区社会福祉協議会 理事長
藤原 軍次		尼崎市社会福祉協議会 理事長
北川 悦久		西宮市社会福祉協議会 理事長
原田 賀代子		伊丹市社会福祉協議会 会長
稲野 廣		宝塚市社会福祉協議会 理事長
和田 満		明石市社会福祉協議会 理事長
糀谷 耕平		加古川市社会福祉協議会 理事長
和泉 藤枝		三木市社会福祉協議会 会長
岸本 龍雄		小野市社会福祉協議会 会長
飯島 義雄		姫路市社会福祉協議会 理事長
森本 都規夫		宍粟市社会福祉協議会 会長
瀧口 迪範		太子町社会福祉協議会 会長
大下 東一		佐用町社会福祉協議会 会長
酒井 清道		豊岡市社会福祉協議会 理事長
小林 哲夫		養父市社会福祉協議会 会長
平野 芳行		篠山市社会福祉協議会 会長
小南 廣之		淡路市社会福祉協議会 会長

役職名	氏名	所属
評議員	木南 義孝	兵庫県民生委員児童委員連合会 副会長
	松尾 幸恵	兵庫県民生委員児童委員連合会 副会長
	山本 國雄	兵庫県民生委員児童委員連合会 副会長
	志水 正太郎	兵庫県民生委員児童委員連合会 副会長
	中村 文子	兵庫県民生委員児童委員連合会 常任理事
	小田 幸一	神戸市民生委員児童委員協議会 副理事長
	谷 亨二	兵庫県老人福祉事業協会 副会長
	久保 純一	兵庫県保育協会 常務理事
	藤本 政則	兵庫県児童養護連絡協議会 副会長
	紺谷 宏志	兵庫県母子生活支援施設協議会 会長
	蓬萊 和裕	兵庫県知的障害者施設協会 会長
	柴田 健吾	兵庫県身体障害者支援施設協議会 会長
	大塚 晋司	兵庫県更生施設連盟 理事長
	松井 年孝	神戸市社会福祉協議会施設部会 副会長
	東馬場 良文	兵庫県社会就労センター協議会 会長
	森村 安史	兵庫県介護老人保健施設協会 会長
	谷鋪 裕子	兵庫県ホームヘルプ事業者協議会 会長
	後藤 富枝	兵庫県ボランティア協会 理事兼事務局長
	揖場 攝	兵庫県子ども会連合会 理事長
	中村 美津子	兵庫県老人クラブ連合会 会長
	下林 五枝	兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会 世話人代表
	小原 冷子	兵庫県手をつなぐ育成会 理事長
	河西 美保	認知症の人と家族の会兵庫県支部 代表
	米 靖弘	兵庫県精神福祉家族会連合会 会長
福田 好宏	兵庫県社会福祉事業団 理事長	
岡本 和久	兵庫県社会福祉士会 会長	
田中 宏忠	兵庫県人権啓発協会 専務理事	
原 孝	兵庫県連合自治会 会長	
空地 顕一	兵庫県医師会 会長	
北野 美智子	兵庫県連合婦人会 会長	
森 京子	兵庫県婦人共励会 理事長	
四海 達也	兵庫県健康福祉部福祉監兼社会福祉局長	
顧問	井戸 敏三	兵庫県知事
	久元 喜造	神戸市長
	武田 政義	前兵庫県社会福祉協議会 会長
参与	菅原 巖	兵庫県共同募金会 会長
	太田 稔明	兵庫県健康福祉部長
	三木 孝	神戸市保健福祉局長
	藤原 雅人	日本赤十字社兵庫県支部 事務局長
	宇戸 午朗	神戸保護観察所長
	大寺 直秀	神戸市社会福祉協議会 常務理事
	西山 茂夫	兵庫県共同募金会 常務理事

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

田辺三菱製薬株式会社
第5期「手のひらパートナープログラム」助成

難病患者の療養・就学・就労等、生活の質(QOL)向上に取り組む活動に助成します。

対象 「平成26年10月21日厚生労働省告示第393号」および「平成27年5月13日厚生労働省告示第266号」において「指定難病」と告示された306疾患の難病患者団体、およびその支援団体

助成額 1件上限100万円(総額1,000万円)

締切り 平成28年11月15日(火)消印有効

☎ ㊟ 公益社団法人日本フィランソピコ協会
TEL 03-5205-7580

URL <http://philanthropy.or.jp/>

公益財団法人大阪コミュニティ財団
2017年度助成

地域社会の活性化を図る活動や社会福祉の増進など、さまざまな分野の社会貢献活動に助成します。

対象 1年以上の活動実績がある非営利団体(法人格の有無は不問)で、平成29年4月1日～平成30年3月31日までの間に実施を予定している公益に資する事業

助成額 各分野により異なる

締切り 平成28年11月30日(水)消印有効

☎ ㊟ 公益財団法人大阪コミュニティ財団
TEL 06-6944-6260

URL <http://www.osaka-community.or.jp/>

公益財団法人ヤマト福祉財団

①障がい者給料増額支援助成金

既に障害者の給料増額に一定の実績がある施設・事業所(ジャンプアップ助成金)や全国平均以上の給料支給実績がある施設・事業所(ステップアップ助成金)に対し、事業資金を助成します。

対象 就労継続支援A・B型事業所、福祉工場、地域活動支援センター、生活介護事業所等で一定の条件を満たすこと

助成額 【ジャンプアップ助成金】1件定額500万円(最大10件程度を予定)【ステップアップ助成金】1件上限200万円(20件程度を予定)

②障がい者福祉助成金

下記に関する事業に助成します。

対象 会議、講演会、研修、出版、啓発、調査、研究、スポーツ、文化事業

助成額 1件上限100万円(総額500万円)

締切り ①②とも平成28年11月30日(水)消印有効

☎ ㊟ 公益財団法人ヤマト福祉財団
TEL 03-3248-0691

URL <http://www.yamato-fukushi.jp/>

公益財団法人日本社会福祉弘済会
平成29年度社会福祉助成事業

社会福祉関係者の専門性向上などを旨とした研修事業や研究事業、地域社会で取り組んでいる先駆的事业に助成します。

対象 社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする社会福祉法人、福祉施設、福祉団体

助成分野 研修事業(①集合研修②派遣研修)、研究事業(③実践研究、調査研究)

助成額 助成対象経費合計の80%以内かつ50万円以内(総額2,000万円以内)

締切り 平成28年12月15日(木)消印有効

☎ ㊟ 公益財団法人日本社会福祉弘済会
TEL 03-3846-2172

URL <http://www.nisshasai.jp/>

公益財団法人楽天 未来のつばさ
自立奨学支援資金

児童福祉施設や里親家庭で暮らす子どもが自立する際の資金を提供します。

対象 児童養護施設・母子生活支援施設等の児童福祉施設に入所している児童、または里親家庭で生活している児童で、原則18歳を迎え、進学・就職する児童

助成額 進学・就職の支度金として1人15万円(250人支援予定)

締切り 平成28年12月20日(火)消印有効

☎ ㊟ 公益財団法人楽天 未来のつばさ
TEL 03-5642-7890

URL <http://mirainotsubasa.or.jp/>

7日 福祉人材確保・定着力向上研修(神戸会場)◆兵庫県私学会館
法人後見・市民後見推進会議(第2回)◆県福祉センター
生活保護査察指導員研修
◆県社会福祉研修所

10日 青年協第2回定例研修会
◆県福祉センター

11日 福祉のしごとと職場見学バスツアー(第7回)
◆恵泉第3特養・稲美苑

14日 平成28年度苦情解決セミナー
◆姫路市民会館

16日 日常生活自立支援事業 専門員・担当者会議(第1回) / 専門員・担当者研修会(第2回)
◆県福祉センター

看護研修
◆県社会福祉研修所

24日 コミュニティワーク専門研修
◆県社会福祉研修所

25日 福祉のしごとと職場見学バスツアー(第8回)
◆桑の実園・千種の苑

28・29日 トップマネジメントセミナー
◆ユニットピアささやま

29日 管理職研修(Aコース)1日目
◆県社会福祉研修所

30日 財務管理研修◆県立のじぎく会館
若年性認知症家族介護者連絡会 / 研修会◆兵庫県私学会館
災害ボランティアコーディネーター養成研修
◆ボランティアプラザセミナー室

12月 3日 福祉の就職説明会 in 但馬・丹波・淡路◆神戸サンボーホール

6日 法人後見・市民後見推進研修
◆三宮研修センター

7日 社会福祉援助基礎研修(Bコース)1日目◆県社会福祉研修所

8日 福祉のしごとと職場見学バスツアー(神戸・阪神南コース)
◆きり保育園・エルホーム芦屋

8日・9日 生活支援コーディネーター養成研修(1日目)◆兵庫県農業会館

9日 経営協 制度対応セミナー
◆ANAクラウンプラザホテル神戸

行事予定

11月 1日 福祉人材確保・定着力向上研修(姫路会場)◆じばさんびる

2日 若年性認知症支援担当者研修(第1回)◆加西市民会館

介護支援専門員専門研修課程 I
演習ワークブック

- 新カリキュラムに対応した7つの事例・ワークシートを掲載。
- 専門研修課程Iのすべての演習科目に対応。
- 指定研修機関が教材として採用する場合、シラバスを進展します。

●定価 本体3,000円(税別) ●A4判・264頁 ●2016年5月20日発行

【申し込み・問い合わせ先】兵庫県社協 総務企画部 TEL078-242-4633



丸大食品
心に残る贈り物

丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます。

お中元・お歳暮には、多くの会員の皆様にご好評を頂き、誠にありがとうございます。当社では中元・歳暮用以外にも快気祝等のご進物用としてのご利用も承っております。今後も宜しくご用賜ります様、お願い申し上げます。

丸大食品株式会社 中日本特販営業課

〒557-0063 大阪市西成区南津守2-1-10

TEL06(4398)3038 FAX06(4398)3063



たっぷりの時間をかけて熟成させた最高級ハムギフト (HA-502)